

# 環境先進都市 水都大阪の挑戦

インタビュー：孔怡



## 平松邦夫氏 大阪市長

水運を発展させ、日本最大の交易・商業都市として栄えてきた歴史を誇る大阪。水害や、経済成長期には大気汚染等の様々な公害問題を克服し、安全で快適な暮らしを提供するため、環境技術の開発、環境共生型のまちづくりを進め、「環境先進都市・水都大阪」を実現してきた。その経験と技術を上海および世界のの人々にアピールし、世界の都市環境改善に貢献するとともに、大阪の人・まち・産業などの都市魅力を発信することを目的に2010年上海万博に大阪府と大阪府で出展する。今回は平松市長に、上海万博出展のヴィジョンをお話いただいた。

本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今年、大阪市と上海市の友好都市提携35周年ですね。最近市長は上海を訪問されましたか？

今年1月に生まれて初めて上海を2泊3日間訪問しました。そこで万博会場も見せていただき、また、調印式にも出席させていただきました。上海料理も食べてきましたが、上海蟹はシーズンがずれていたようでした（笑）。

関西から上海は非常に近いですね。帰りはリニアカーにも乗りました。あつという間に空港に着くので正直「すごい！」という印象がありましたね。

万博会場の建設工事の印象はいかがでしたか？

工事を目の当たりにして、昔、吹田の万博会場の前に住んでいたのが、大阪万博の頃のことを懐かしく思いました。また、一気に物事を変えていく中国の力を強く感じました。上海市当局の方にお話を聞きました。何路線か同時に工事しているから全然車が動かないそうですね。

万博開催時には地下鉄が全部完成するたため、こんなに混まないのも来てくださいます。車は少なくなりました。上海はどのようなものかと、楽しみにしております。

そうですね、工事は着々と進んでいます。上海万博開幕300日前のカウントダウンに合わせて、地下鉄第8号線がテスト開通

されたというニュースが流れました。年末あたりまでには開通するでしょう。また、道路も一部作っています。愛知万博2005年日本国際博覧会、の会場や全体の構想と比べたら、大阪万博（日本万国博覧会）により似ているところがありますね。都市開発型の万博ですね。

元々開発が進んでいた上海が、さらにダイナミックに進化するわけですから、期待を膨らませています。市民生活が密集した中に会場があり、それを一気に開発する点に力強さを感じましたし、会場の真ん中に黄浦江が流れているのも非常に印象

的でした。

中国館なども全部外観は出来ましたし、日本館も工事が進んでいます。また日本産業館も工事に掛かりました。

ちょうど去年の秋のリーマンショックで経済危機が世界中を襲いました。上海万博への影響が心配されていました。そういうものを一気に跳ね飛ばす勢いのある博覧会になると良いですね。私たちが訪問した1月に中国館の上棟式があり、外から見ても、あの中国館のオブジェが見えていました。会場の広さも含め圧倒されました。大阪の出展内容についてもお聞かせください。

ベストシテイ実践区で、大阪市と大阪府が共同で出展します。

万博の入場者数の記録は、大阪がずっと最高を維持してきましたね。はい。上海万博では確実に抜かれてしましますね。来場者は700万人を目標としていると聞きました。当然それ以上の入場者があるでしょう。多くの日本の方々にも見に行っていたと思いますね。

大阪のアピールも上海で大いにできますね。

そうですね。中国は今までは開発に重点を置いて発展してきましたが、これからは環境問題などを先取りしなければなりません。私が上海に行つて印象的だったのは蘇



調印式

州河の汚染をいかにして克服するかという展示を行っているテーマパーク「夢清園（ムセイエン）」でした。大規模な開発となると環境問題がある程度犠牲にならざるを得ないところがあります。日本は環境問題などを置き去りにして開発を進めてきたところもあります。中国も同じようにならないければよいのと思っています。しかし、中国は問題に気がつくのが非常に早い上、同時に国をまとめる力が非常に強いだけあって、それを克服しようとする力、すなわち方向性やテーマを見つけるとそこに注ぐ力も強力に集中され、水質汚濁などを克服するのだという勢いが強く感じられました。我々の出展は「環境先進都市・水都大阪の挑戦」というものですが、あつという間に追いつかれるのではないかとこの迫力を中国には感じます。幸いにして、先行の利益と言いますか、まだまだ我々は技術力を持つていますので、大阪がやってきたことを中国はもちろん、外国の皆様にも伝える価値は高いと考えております。大阪は、かつては煙のまち、公害のまちと言われた時期もありましたが、時代をもっと進めると、水をとても大事にしていたのです。舟運が盛んで、全国各地からいろいろなものを集めて運び、日本中あるいは世界へ向けてビジネスをやってきたまちなのです。だからこそ、もう一度綺麗にしなければならぬという思いが強いのです。今年、「水都大阪2009」というイベントがあり、8月22日から開催されます。この間にも上海万博

のプロモーションをしたいと思っておりますし、我々が「水の都」というものに対して抱いているイメージや想いを世界共通のものにしたい。そのためには、世界水準まで自分たちに磨きをかけなければなりません。まだまだ磨きをかけることがたくさんあるのです。だから「水都大阪2009」を水の都大阪再生のきっかけにしたいと思っています。来年の上海万博では、それがまた一段と進んだ形となって、大阪のプロモーションができるだろうと思います。

水都大阪の事業において多種多様なイベントがありますが、一番の見所はどこですか？

大阪市の人口は266万人、面積は222平方キロメートルで本当に狭いところなのですが、その真ん中に依然として口の字型の川が流れているのです。その川を観光資源にしながら、水質を浄化してきているのですが、ずいぶんきれいになりました。市役所のある中之島は、上流から流れてきた土が積み積もった中洲なのですが、そこに中之島公園があります。大都会の中で両側が川に挟まれたこんなきれいな公園があったのかと思われるようなところですが、その中之島公園の再整備を進めており、8月22日には皆様にお披露目することができます。水に親しむ親水公園としてすばらしい公園ができるのです。周りは大きなビルや日本銀行があり、ビジネスの中心地ですが、水辺でゆったりとした時間を過ごすことができる都会のオアシスとなるでしょう。また、この口の字型の川を巡っていた

# OSAKA Pavilion

IN THE URBAN BEST PRACTICES AREA  
OF THE **2010 EXPO**



水都朝市リバーカフェプログラム (イメージ)



水辺の文化座 (イメージ)



ナイトプログラム (イメージ)

**水都大限2009**  
2009年8月22日～10月12日開催

入場無料 (一部有料プログラムあり)  
<http://www.suito-osaka2009.jp>

た川がステージとなったのです。阪神が優勝した20年前にカーネルサンダースが投げ込まれたなど、色々あった川なのですけれど、それがきれいになってイベント空間に生まれ変わっている。この事実は我々が今までやってきたことの正しさを証明してくれています。水都大阪2009の際は、この道頓堀をはじめ、水の回廊の各船着場でカフェやジャズコンサート、ドラゴンボートの試乗など、地元の方々と一緒にいろいろなプログラムを用意しています。いろいろな形で楽しんでいただけるイベントです。楽しんでほしい。

とても楽しみです。私も大阪には十数年ありますが、最初に大阪の観光関係のプロモーションで上海に行く際、色々勉強しました。大阪八百八橋といわれていますよね。水運で発展してきたまちで、またそうした活気が戻ってくるのは、すごく良いことですね。

十数年前とは大阪の景色も随分変わっています。そうでしょう。

そうですね。きれいになっています。港まちで川も流れているということ、上海とすごく似ているところがありますね。昔は水も汚れ、空気も汚れていた大阪が、きれいになってきて、上海も大阪との交流によっていろいろな経験を学んできたと思います。

大阪市は上海市の友好都市であるため、水道技術や地下鉄技術など、こちらが先に行っている部分については協力させていただいています。上海からは、そうした勉強

のために大阪市へ来ていただいた歴史があります。1月に上海に行ったときも私に付き添ってくれた本市の技術職員が、「ここで世話になったのです」だとか、見学に行った場所では「この人の何代か前の人が大阪市に研究のために行ったのです」というような交流の話を聞きまして、国と国だけではなく、市と市との友好が目に見えなくても密接に繋がっていて、ふとしたところで表へ出てくるのが、大阪市民としてはすごく嬉しかったです。上海でも大阪がすごく頑張っていたのだということがわかるし、上海の人たちからそれを感じさせてもらえてとても有意義でした。

まもなく始まる水都大阪2009の中で、上海万博を紹介し、来年の万博の中では、水の都大阪を紹介する。お互いに相手の都市をアピールしあうという機会と関係はすばらしいですね。最近中国人観光客が多い日本に来ていますがその方たちに大阪をアピールするならどういうところでしょうか。

とにかく、大阪人という「人」ですね。ホスピタリティに溢れています。まだ中国語がわかる方は少ないと思いますが、行政側としては、いらっしやうっていただく皆様、快適に過ごしていただけるように様々なところで中国語、韓国語の表記を増やしていますので、安心して大阪をじっくり楽しんでいただけるようになってほしいと思います。大阪は食い倒れのまちといわれ、美味しいものがどこにもあります。中国も



とんぼりリバーウオーク

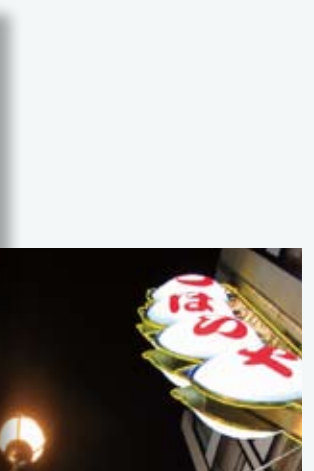


中之島公園再整備 (イメージ)



だいたら、1時間半ほどのツアーができるのです。ここを廻るだけでも、大阪の様々な姿を見ていただけたと思います。ただ、残念なことに、今は建物がみんな川にお尻を向けて建っているのです。そのため「水都大阪2009」で川にスポットライトをあて、川と道路両方に表を向くような構造に変えて行きたいと思っています。一番南に大変にぎやかな道頓堀川があるので、その両側に「とんぼりリバーウオーク」というウッドデッキを作りました。それまでは、単にビルの裏側の川だったのですが、ウッドデッキを作ることによっていろんな人たちが裏側の水辺を歩くようになり、自分たちのお店の勝手口を逆にお店の入口に作り変えるなど、そういう見せ方をするお店が増えてきてきたのです。だんだんと変わっていくようすを見ていただけますし、観光客もたくさん大阪にはいらっしやいますから、非日常的な雰囲気味わっていただくにはぴったりの場所だと思っております。たまたま今年「レッドクリフ パートII」の世界プレミア試写会が大阪で実施されまして、ジョン・ウー監督と主演俳優の方々が船に乗って道頓堀川を渡ってくるという演出があり、そこに私も一緒に乗せてもらったのです。「なんでや？」と言ったら「大阪市が許可権限を持っているから大阪市が許可せなあかん」ということで、一緒に乗れることになったのです。そこで船で表に出たら5000人の人たちがざらっと並んで川を見ているのです。今までは誰も顧みなかつ

OSAKA Pavilion  
IN THE URBAN BEST PRACTICES AREA  
OF THE 2010 EXPO



く「海の御堂筋構想」というのがあります。まずは中之島エリアの護岸を緑で覆って、河口に行くにしたがって工場がありますから、それが建て替わる時にどういった誘導をすれば海や川のほうを向いてもらえるかといったことを考えています。水との親しみというのをぜひ実現したいというのが、長いスパンでの夢ですね。

私も長く大阪に住んで、観光やいろいろな面で大阪をアピールする機会があり、よく大阪はどんなまちですかと聞かれます。一言で言えば、何でもあるまちですよ。歴史もあり、文化もあり、食べ物も美味しい。先ほど市長にお話いただいた、これからへ向けての大阪がとても楽しみです。

中国の観光客の方は大阪が一番多いかもしれないですね。帰国されてから、「大阪よかったですよ」と言ってもらえるまちでありたいです。京都、神戸、奈良へも30分で行けるんです。大阪ももちろん素晴らしいものたくさんありますが、京都を見たいという方もたくさんいらっしゃるでしょうし、神戸の坂と港の雰囲気味わいたい方もいらっしゃるでしょう。大阪からなら、そういったポイントも30分くらいで見られます。お買い物スポットだけで通り過ぎる方もいらっしゃると思いますが、大阪をベースに考えていただいたら、居心地もよく活動半径の中に、ありとあらゆるものがあり、魅力を十分に持っています。こんなまちは世界にないだろうと思いますよ。ミラノに行ったらミラノだけを観ることになりますよ、大阪

食通の方が多くでしょうから、そういった面でも楽しんでいただけたらと思います。またお買い物も、親しみやすいところもあれば、東京と変わらない高級ブティックが並んでいるところなど、見所がたくさんあります。あらゆる方のご要望にお答えできるまちが大阪だと思っています。広大な土地がある中国と比べると非常に狭い土地ですが、肩を寄せ合って懸命に開発をし、快適な暮らしを求め、きれいな景観を残し環境を考えています。課題の多い中で、われわれが知恵を使っているというところをしっかりと見ていただきたいです。特に、御堂筋というストリートはぜひ歩いていただきたいです。

秋の銀杏並木など本当にきれいですよね。大阪は中国の観光客に定番ですが、先ほどおっしゃっていた心齋橋でのショッピングは中国人にも有名です。その商店街で1時間ごとに流れている数分間のアナウンスの中国語は私の声なのです。

そうですね、今度聞きに行こう！ そのうち私の声も入れていただこう笑。

そうですね笑。最後に、将来の大阪市としてはどのような発展を計画されていますか。

やはり、水を活かしたまちづくりをいかにしていくかが私の一つの目標です。まだまだきちんと整備はされていないですけど、大阪城から大川、さらには安治川になって大阪湾に注いでいく川筋を、御堂筋に匹敵する水を中心とした東西のシンボル軸と捉え、水辺を活かしたまちづくりを進めています。

# OSAKA Pavilion

IN THE URBAN BEST PRACTICES AREA

## OF THE 2010 EXPO

大阪館イメージ



関西国際空港 (株) 提供

ベルク城の「インドの間」というところで切り取って内装として使っていたらいいのですが、日本人から見たらインドではないだろうということ、学芸員が調べたところ間違いなく大阪を描いた屏風であることがわかったのです。中国では大変有名な「清明上河図」というものがありますが、それと同じコンセプトであると思うのですが、物がまだエッゲンベルク城にあるのですが、ここに行つて精巧なスキヤニングをして、関西大学にて陶板画に仕上げ、その元になったデータを大日本スクリーン社の最先端の技術で転写しお見せするのです。また、世界で最大級の金貨も造幣局から借り出して出展します。165グラムの金です。豊臣期の大阪がいかにか賑わっていたかわかるでしょう。水路で色々な物資が集まってきた、文化や芸術が広まってきた。まさしくそうした歴史の必然性からでしょう、中国への初めての正式な日本の遣い「遣隋使」は、大阪から出港して行ったのです。ですから、より結びつきの強さを実感します。他のところでもよかつたのに、どうして大阪から当時出て行ったのか？ 大阪の利便性や、あらゆる芸能や文化が集まる引力を持っていたからだと思います。それが大都市に成長した。上海も同じだと思います。大きな川の海に注ぐ手前にある河口にあり、人間が長い時間かけて築き、どんどん開けていく都市。大阪と上海には何か目に見えない絆があるというロマンを感じます。普段行政をやっていたら感じないので

に行ったら全然雰囲気違う京都、神戸が見られます。大阪に来て、あちこち関西を歩いてみませんか？ というようなツアーをぜひ企画してほしいですね。とてもいい企画ですね。

今、コミュニティ・ツーリズム「OSAKA 旅めがね」というのを始めています。これは自分の見たいスポットをまちの人が案内してくれるという企画です。2時間ほどで歩けるコースで、中国語での案内はないのですが、日本語がわかるようでしたら、そこに参加していただいても面白いでしょう。

今、いろんな形で最新の技術を使い、より良く大阪をわかっていただける工夫をされ

ていると思いますが、その際に色々できることがあればお手伝いさせていただきます。万博の今回の出展で、たくさんの来場者に大阪をアピールできると思いますが、そこで発信したいメッセージをお聞かせください。

環境ですね。水をテーマに訴えるつもりですが、地球環境問題を人類がいかに克服していくかが、今後の万博の最も大きな推進力になると思います。ベストシティア実践区で出展する大阪館を見たいと思ったら「小さな国がこんなに頑張っている」ということがわかっていただけます。今回は、大阪市と府だけで出展しているのですが、その他の都市にも声をかけていて、近畿の魅力を知っていただけるような展示になると思います。大阪市の花は桜なのですが、現在、安藤忠雄さんのご協力を得て「平成桜の通り抜け」というものを作っております。大阪館の展示にも桜の通り抜けをイメージしたものがあります。中国にも桜はあると思いますがそれはまた雰囲気少し違うと思います。ぜひ、大阪館で「水の都」という水で結ばれた友好都市を感じていただきたいと思えます。

大阪館の桜をイメージした展示とても楽しみです。他にはどのようなものが見られますか。

豊臣期の屏風絵を実物大以上の大きさで見せます。豊臣期に描かれた絵ですが、見つけたのはオーストリアなのです。エッゲン



平松市長と本誌記者の孔怡

すけどね笑

行政としても水都最大の魅力を發揮できるということは、人やモノの往来から発展していく大阪ならではの、よいまちづくりができることに繋がるすばらしい政策ですね。

今後とも文化・芸術など、お互いに交流し合い、いい地球になっていけばいいですね。まずは来年の上海万博に期待をします。

大阪市と上海市の友好都市提携35周年、そして来年の万博へ向けて良い形でアピールできる機会はすばらしいですね。本日はお忙しい中、大阪市の魅力溢れるお話を聞かせていただきありがとうございました。